

ポストコロナの 都市像を描く

COVID-19 の感染拡大では、経済的損失、地域とのつながりの断絶、格差など、近代化によって築かれてきた現在の社会システムや都市空間のあり方に対するゆらぎをおこっています。歴史的にも、感染症はその被害の広域性と継続性などから、都市の在り方を大きく変える契機となった事実が認められます。例えば 19 世紀欧州でのペストやコレラなどの流行は、公衆衛生という概念を生み都市計画へと発展しました。そしてスラムクリアランスとインフラ整備を持って近代的な都市の骨格へと造り替える契機となりました。

今回の COVID-19 の感染拡大下において、既に、働き方、暮らし方、文化活動、社会サービスや情報、移動が、長い時間の中で私たちが形成してきた従前の形を変えつつあります。このような変化は、IT 技術の発展に加え、人口減少や高齢化、縮退局面の時代にあることとも無関係ではないでしょう。また東日本大震災から 10 年目を迎えようとする中、南海トラフ地震や首都直下地震の事前復興に向けた接続点を見出し、ウイルスとともに歩まざるを得ない私たち自身の未来に向けて、次の都市像を描くことはできるでしょうか。

これまでの都市の空間一場一領域のあり方を批評的に捉え、ポストコロナの都市像を提案してください。

●**応募資格** 30 歳以下（2020 年 3 月 31 日時点）の学生・社会人（個人・グループは問わない）

●**賞** 最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点程度

●**提出物** ポスター 2 枚（A3 版横使い）※PDF 形式で提出してください

●**スケジュール**

・2020 年 9 月 30 日 応募締め切り ・2020 年 10 月末頃 一次審査結果発表 ・2020 年 12 月 5 日 二次審査（公開）

●**審査委員**

委員長

内藤 廣（建築家）



委員

高橋 一平（建築家）



副委員長

宮城 俊作（ランドスケープ）



千葉 学（建築家）



委員

乾 久美子（建築家）



野原 卓（都市計画）



羽藤 英二（社会基盤）



●**コンペ問合先 / 送付先** 井本佐保里（日本大学）imoto.saori@nihon-u.ac.jp